

ほんがいっぱい よんでみよう!



5・6年生のための本

①『劇団6年2組』

吉野万理子／作 宮尾和孝／絵 学研教育出版 《Fヨ》

最後にクラス全員で一つのものを作りたい。そんな思いから、お別れ会で劇をやることになった6年2組。立樹や里夏を中心に脚本作りが始まったものの、友だちの気持ちも役の気持ちもなかなかわからず、空回りばかりしてしまう。果たして6年2組は、自分たちだけの劇を作ることができるのだろうか？

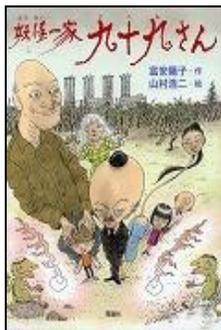


②『妖怪一家九十九さん』

富安陽子／作 山村浩二／絵 理論社 《Fト》

新しくできた団地の地下12階、そこには妖怪の一家が住んでいます。ぬらりひょんパパに、ろくろくびママ、おじいちゃん・おばあちゃん、そして3人のこどもたち。さて、妖怪が人間と一緒に暮らしていくためには、いろいろなルールが必要で…。

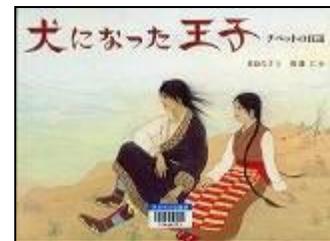
第2巻『妖怪一家の夏まつり』
第3巻『ひそひそ森の妖怪』もあるよ！



③『犬になった王子』

君島久子／文 後藤仁／絵 岩波書店 《M》

むかし、チベットのプラ王国には、穀物がありませんでした。山の神が穀物の種を持っていると聞いた王子は、国の民のため、険しい道りをこえ、山の神に会いに行きました。すると、種を持っているのは、山の神ではなく、恐ろしい蛇王だといわれて…。



④『三本の金の髪の毛』

松岡享子／訳 降矢なな／絵 のら書店 《M》

運命を名付親にもった青年プラバチェック。おひめさまと結婚するためには、すべてを知る知恵の老人の金の髪の毛を三本持ってこなければならぬ…。ポーランドをはじめ、中欧や東欧で語りつがれてきたおはなしを16編収録。



⑤『身がわり王子と大どろぼう』

シド=フライシュマン／作 谷口由美子／訳
ピーター=シス／絵 童話館出版 《Fフ》

「あくたれ王子」は、どんなひどいことをしても罰を受けません。だって、身がわりの少年がいるのですから。孤児のジェミーは、王子のかわりに、ムチで打たれてばかり。いつか城から逃げだしてやる！と思っていました。と、ころがある晩…。

⑥『チキチキバンバン 1 ちきちきバンバンはまほうの車』

ジョン・バーニング／文 こだまともこ／訳
ジョン・バーニング／文 あすなろ書房 《Fフ》

冒険家で発明家のポットさんは、おくさんと双子の子どもたちと暮らしています。発明のおかげで、自動車を買うお金をかせいだポットさんは、ボロボロのレーシングカーを手に入れ、その車を直すことに…。

第2巻『海辺の大ぼうけん』
第3巻『ギャングなんかこわくない』もあるよ！

⑦ 『うちは精肉店』

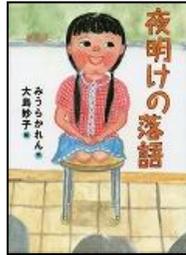
本橋成一／写真と文
農山漁村文化協会 《64》

普段食べているお肉は、どのよ
うに、だれがつくってくれている
のでしょうか。きょうは、「貝塚市立
と畜場」のさいごの仕事の日で
す。これから黒毛和牛の屠畜を行
います。牛を食べるために、いの
ちをいただき、そしてそのいのち
をいかす仕事、それが屠畜です。

⑨ 『夜明けの落語』

みうらかれん／作 大島妙子／絵 講談社 《Fミ》

暁音には、暗いところやオバケより、もっともっ
こわいものがある。それは…話すこと。そんな暁音が、
日直の仕事で、5分間スピーチをすることになって
しまった。スピーチの内容も決まらないまま、スピー
チの時間がやってきた。泣きそうになったそのとき、
同じ日直の三島君が…。



⑩ 『アーヤと魔女』

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作 田中薫子／訳 佐竹美保／絵 徳間書店 《Fジ》

孤児院で育ったアーヤは気の強い女の子。今まで
誰もひきとろうとしなかったアーヤを家に連れて
帰ったのは、なんと魔女だった。魔女のしたでこき使
われるアーヤ。さらに、家には魔女も恐れる角のはえ
た男もいて…。自由を手に入れるため、アーヤは黒ネ
コのトーマスと一緒に、魔女に立ち向かう！



⑧ 『災害救助犬レイラ』

井上こみち／著 講談社 《36》

あなたは災害救助犬を知って
いますか？災害の現場で、すぐれ
た嗅覚をいかして、生存者をさが
しだす犬の事です。2011年
3月11日、東日本大震災が発生
した時も、レイラはいち早く被災
地にかけつけ活動したのです。

⑪ 『ハクチョウ水べに生きる』

嶋田哲郎／文 伊藤利喜雄／写真 松原巖樹／イラスト 小峰書店 《48》

ピリッと冷え込んだ冬の朝、今年も宮城県伊豆
沼に、ハクチョウたちが帰ってきました。ハク
チョウはどうして日本にやってくるのか、どこで
寝て何を食べるのか、みなさんは知っています
か？ハクチョウたちの懸命に“生きる”姿を観察
してみましょう。



⑫ 『おしごと制服図鑑』

講談社／編 講談社 《36》

制服と仕事には大切なつながり
があります。制服を頭の上から足
もとまでよく見てみよう。仕事
のひみつがいっぱいつまっています。
まずは、身近で働いている人
の制服から見てみよう！

⑭ 『カステラ、カステラ!』

明坂英二／文 齋藤芽生／絵
福音館書店 《38》

ずっとむかし、日本に、「海の民」
ポルトガル人がやってきました。
教会を建てるために長崎に住み
着いた神父が、ポケットから見た
こともないお菓子を取り出してみ
んなにすすめました。口に入れて
びっくり！なんて甘いんだ！

⑬ 『百まいのドレス』

エレナー・エステイス／作 石井桃子／訳
ルイス・スロポドキン／絵 岩波書店 《AFエ》

同じクラスのワンダは、「ドレス
百まい、持ってるの。」というけ
れど、クラスの誰も信じていない。
だって着ている服はいつも同じ青
いワンピース。そんなワンダがあ
る日学校にきていなくて…。

⑮ 『町のけんきゅう』

岡本信也・岡本靖子／文・絵
伊藤秀男／絵 福音館書店 《36》

おもしろいものをさがして、近
くの町を歩いてみました。お父さ
んは下、お母さんは上とよこ、わ
たしは食べもの屋さんが気になり
ます。町には、おもしろいものが
いっぱい。わたしが世界一の
研究者になる日ももうすぐ！